

# い わ み ざ わ

発行 岩見沢駐とん地  
編集 岩見沢  
班報 司 業 務 令 廣 告

### 今月の行事

12日	通信移動局検査
13日	武器保安検査
16日	随員昇任選考試験
24日	会計監査受検



## 連勝街道へ

### 団 銃 剣 道 大 会 二 連 勝

長く、そして厳しかつた練成訓練を経て、誇らかに勝ちとつた真紅の優勝旗を手に、わが銃剣道選手団は出迎えの同僚達の拍手を浴びながら、ジツとその喜びをかみしめていた。

四月十五日、第三施設団、群対抗銃剣道大会で、わが第十二施設群銃剣道選手団(監督 加茂三尉)は、一昨年に引き続き優勝を飾り、V2の夢を実現させた。群はこの勢いのかつてV3への道を目指すこととなつた。勝者であるわが群の前に立ちふさがるライバルも既に強力であり、今、直ちに来年への戦いは始つてゐる。勝利の感想と来年の戦いへの抱負などについて、加茂監督は次のような手記を寄せている。

この度、第三施設団銃剣道大会で当群が優勝したことは、監督としても決して喜び感激しているところですが、今、こうして静かに、この大会と練成訓練を振り返つて優勝の要因を考えてみた。

一 各人が群の選手要員だということを実感して、グチ一ついわず、厳しい訓練に励んだこと。

二 十五名の選手の内、十五名の力・技だけでなく、選手要員二

十八名全員の力の和(ムード)があつたこと。

三 助教各位の人間味溢れる指導があつたこと。

何か抽象的な言い方だが、(それだけ具体的な要因が見つからないのである。)事実、全員の力を総結集できたからこそ、優勝を勝ち取れたのだと思つてゐる。私の気持はこの限られた紙面に、充分言い表わすことはできないが、勝



△ 連勝の誇りと優勝旗と賞状を勝ちとり胸を張つて帰隊した銃剣道選手団

利の要因に寄与した公私にわたる助教の指導と態度に敬意を表するとともに、深く感謝をしてゐる。華やかさ優勝の蔭に、献身的に地道な指導を続け、選手一同の敬慕の念を集めた三助教の涙ぐましい努力があつたことを、皆さんにお知らせしておきたい。

優勝決定の瞬間、他群の某士長が「来年は見ておれ!」といつた言葉に、何か異様な威圧感を感じた。たかが一士長が!と侮ぶることなく、今後の練習の際には全部隊直接の声として、胸におさめておきたい。

今日から始まる V3への道!

今後の明るい材料として、士長一士の諸君が皆、格段に上進した

ことがあげられよう。最終的に誰を選手にしようかと幾度迷い、選手選考のために何處場所をかえて試合を実施したことか。

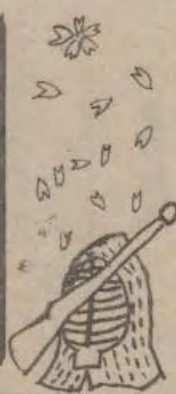
これらの時、惜しくも選考にもれ九一隊員の口走つた言葉に、未来の明るさを感じたものである。その言葉は、「奮生! 来年こそは選手になつて見せる。必ず来年もやる。」と。

その言葉が、監督である私にとつてどれほど嬉しく、勇気づけられる言葉であつたことか。

大いにやろう! V3を目指して

最後に駐とん地全員の皆さんの絶大なるご支援、ご協力、またご声援本当にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

(第十二施設群銃剣道選手団 監督 三尉 加茂 淳三)



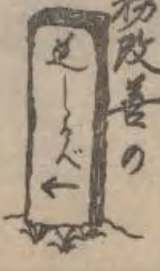
今月は... 火災予防月間

昨年度は岩見沢管内だけでも三十五件もの火災が発生し、死者二名、損害額約九千万円もの被害をうけました。これら火災発生の原因の殆んどは不注意によるものです。

火災事故の駐とん地記録を誇りとし、熱と火の取扱いは一人一人が注意深く対処しましょう。

火災は人災・守るはあなた。

### 業務改善の



われわれは、仕事に慣れてくるとつい「こう定められている」とか「前からこうやって問題ない」とか、今までのやり方を続けて行つてしまふ。そしてマンネリに陥ちりがちである。

それぞれ部隊において業務改善提案件数という、年間の目標をもつて隊務の効率化、創造性を喚起しているが、年度末になつて目標達成のため漸く業務改善という言葉を耳にするのが不思議でならない。

一般企業においては、利潤は勿論「仕事のやり方」についての創造性についても強く要求され、自衛隊退職者は、言われた事はよくやるが創造性がないと聞かされ、平素から業務改善を通じ、創造性を養う必要を痛感させられます。

ところで、業務改善となるとついむつかしく考えてしまふが、次の要領でやれば意外と自分の周囲に一つや二つは改善すべき事が浮かんでくるものです。

一 全てに疑問を持つ

この仕事とあの仕事を一緒にしたら、あるいは逆に仕事を分けたらどうか。もつと進んでいっつそ中止したらどうか。

二 他人の立場で考える

仕事に慣れてしまふと他の立場を忘れてしまふ勝ちですが、別の立場から見ると全く不自然で不合理なことが多くあるものです。

(業務隊 K・J)

襟に輝やく金の星

金バッヂ獲得作戦始末記

栄光の幹部候補生の金バッヂを襟に着けた時、私は、とてつもない重さを心に感じた。本当に合格したのだろうか、半信半疑の気持ちの中は錯乱の状態であつた。

これまでの三年間、私は家庭も友達も捨てたばかりに独学に励み自分と戦つた。毎日、毎週毎月の戦法を計画し、夜間訓練の連続で終始徹底したが、嫌気がさしたり、眠気がさしたり、自分に敗けてしまふやうになつたりする日が数日はあつた。その度に妻子の寝顔を見ては、「こんな子供まで犠牲にしているのに、これで良いのか、自分に勝たなくては駄目だ。攻撃目標は自分自身のものだ」と自分自身に言い聞かせ、鞭打つてがんばつた。

一年目は不勉強のため不合格。妻には慰められたものの、口惜しくもあり、妻子に対しても申し訳なくも思つた。

今年こそは絶対に合格しなければならぬ。と闘志を燃やし中途半端な考えでは合格の道はないと悟り、発表当日から独学に入つた。

宴会、部外工事参加と私は苦しんだ。人が酒を飲んでゐる時は教鞭を飲んだ。その甲斐あつて二年目は一次試験に合格した。さて、次は二次だ。急に体力の増強を図つたが、目先の勝負の事、判定は決まつていた。不合格。この時思案に苦しんだ。「また家族も家庭も犠牲にするのか。もう一度挑戦するか、道は二つに一つであつた。三日間真剣に考えて再度挑戦と決定。

今年、勉学と体力の維持とに重点を置き、体力は朝昼終礼前に鉄棒そして軽いランニングを続けた。勉強方法も変えた。夜間二十時までは部屋でカウンスラー室を借り、消燈まで勉強し、その後家に帰り、二時頃までがんばつた。この方法はとても良い結果を生んだ。というのは、家に帰ると子供達は寝ているし、その寝顔を見るとさらに闘志が燃えたものだつた。

おらが中隊の

ダンブちゃん！

そこだけそこだけ、ダンブが通る。我らの愛車ダンブもやん前から見ても後から見ても、一見グロテスクな形をしている。だが「可愛らしい！」と感じる人も中隊以外にきつといると信じている。

昨年三月二十五日、悪魔の噂を後にして、新しい故郷「岩見沢」に籍を移したのである。人間ならば涙を流したかも知れない。あれから一年、はじめの内は恐る恐るさわつていた隊員達も、今では一

訓練成果が現われ、一次試験合格。今度は二次に臨んでも自信があつた。遂に二次合格との判定。妻と手をとり合つて喜び、三年間の反省を行つた。「人間、努力とやる気の問題」結論が出て、現在では家庭は円満、楽しい毎日を過ごして充実した人生を送つています。

(第三三五施中 幹部候補生 一等陸曹 辻本 敏)

心同体の気持で乗り回し、手入等にも余念がない。すでに五十二年度の業務等もスタートし、我々ダンブ中隊一同も、今年度に予定されている数多い部内外工事を前心をはずませて張り切つてい

昨年度中にアタックした部内外工事は十五件、延べ走行キロ数は約三十万キロに達し、実に地球を七周り強の走りつぶりであつた。そして我々が何にもまして誇りにできることは、全てが事故ゼロであつたことである。

部隊としての誇りを守ろうという努力以外の何ものでもない。間もなく、今年度初の部外工事に出発しようとしている。我々は中隊の特性上、夏場は殆んど駐とん地を離れ、岩見沢に残した愛しい彼女に逢いたい気持ちをグツとこらえて、道民の負担に配慮しているのである。ダンブの響きいや高く期待に応え、ヒガシ・・・と中隊歌を口ずさみながら、中隊長がいつもいつている「お互いの幸せの追求」と「よき伝統の醸成に全員が力を合せて努力しよう」と誓いあつた我々である。

(第三〇四ダンブ車西中隊 三曹 桑原 義雄)

一般部隊に

配置になつて

昨年九月三十日入隊以来、四月五日で教育も終り、晴れて一般部隊(第三三七施設中隊)に配置になりました。

それから二週間、総出訓練や夜間訓練、そして警衛勤務などを体験しました。警衛隊に上番してみ

て、今まで外出等で大だ何気なく警衛所を通つていきましたが、上番者のつらさも判りました。一般部隊は教育隊と違つて、手とり足とり教えてはもらえません。今までの習つた基礎を応用して、まだ知らないことばかりです。けれども、要所をつかみ一つずつ自分のものにしていかなければならぬと思つています。そのためには、すべての訓練に神経を集中させて、自主的に、積極的に訓練

に励み、体で覚え身につけることが必要だと感じています。これから先、新隊員教育隊で体験してない訓練がまだまだたくさんありますが、判らない時は先輩等に教えてもらつたりして、一日も早く、旧隊員に追いつき、追いつけるよう、私達新隊員三名は努力するつもりです。

(第三三七施設中隊 二士 野原 勝夫)

昇段審査終る

四月十七日、栗沢町で戸山流居合道の昇段審査が行なわれ、岩見沢駐とん地の隊員、十七名が受審し全員が合格した。

今回の昇段審査には、女性(業務隊三谷三曹婦人)と学生(高西一曹の子供中一)が健闘し兩名とも見事に、初段に合格した。合格した段位次のとおり(自衛官のみ)

- 六段 三名 五段 一名
- 四段 五名 三段 五名
- 初段 一名

編集後記

長かつた冬も去り、駐とん地は、緑につつまれ春風にその威容を誇り、訓練最盛期に備えての万事を固つていきます。今月号から、当機関紙の編集者が変わりました。前者の堀田一曹、ぼんとうに御苦勞様でした。皆さんの広場、機関紙いわみさわを今後共宜しくお願い致します。記事を募集しております。お気軽に投稿して下さい。司令業務班 西畑

WEEK NEWS

四月五日、第十一師団音楽隊は、岩見沢市民交通安全パレードを支援、市内目抜き通りを勇壮なマーチを奏でて、「春の交通安全運動」を盛り上げた。

四月九日、月形町自衛隊協力会は、同町福祉会館で総会を開き、事業計画などを審議した。

四月十三日、月形町自衛隊父兄は総会を開き、役員の変更、事業計画などを審議し、会の活性化を誓い合つていた。

四月二十日、駐とん地は市内所在の新聞社など九社を招き、懇談会を実施した。

駐とん地では、今回の防衛モニターとして市内の女子大生、江戸仁美さん(二〇才)を正式に委嘱した。